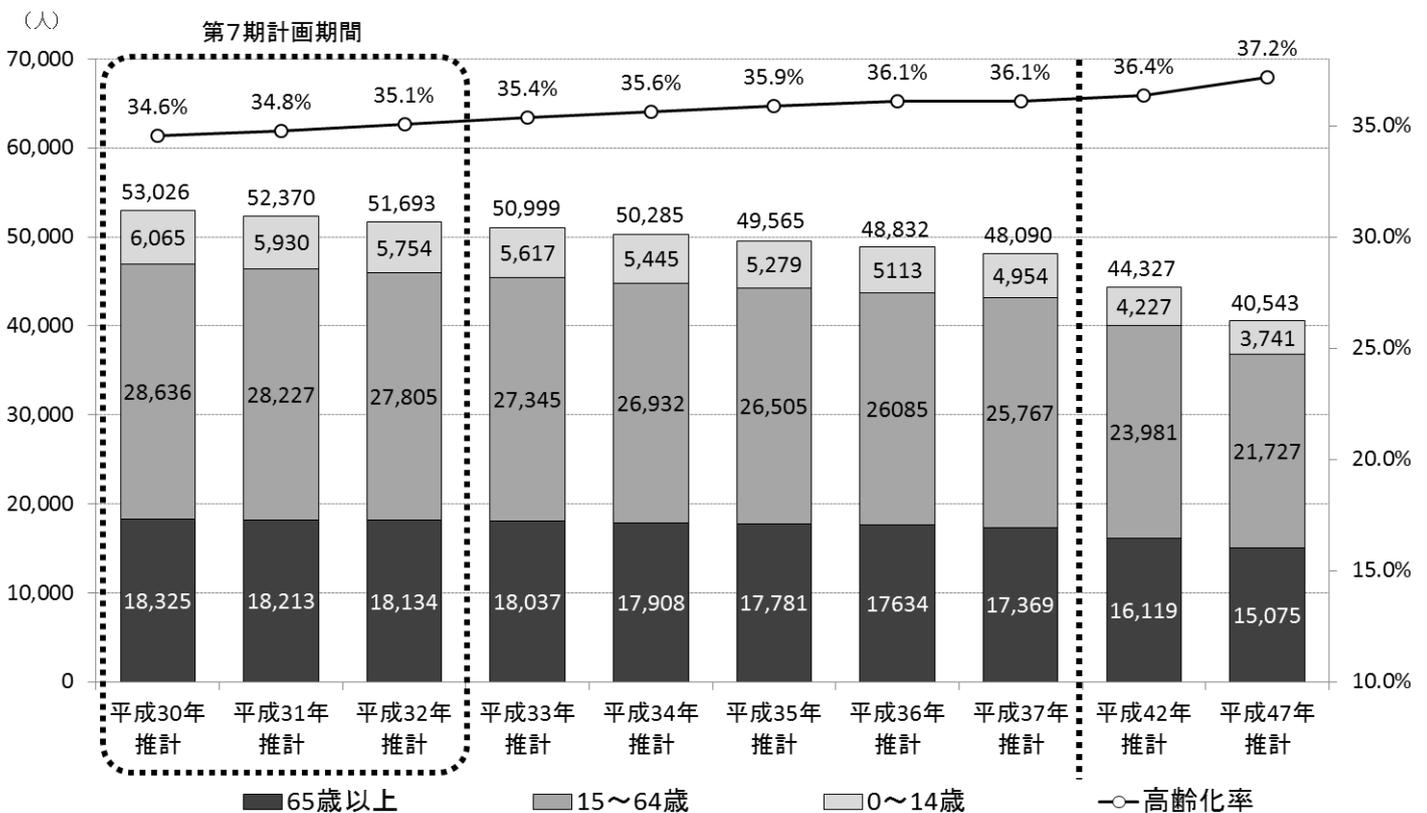


高齢者人口と要介護認定者の推計について

1. 人口推計

1) 総人口および年齢3区分別人口の推計

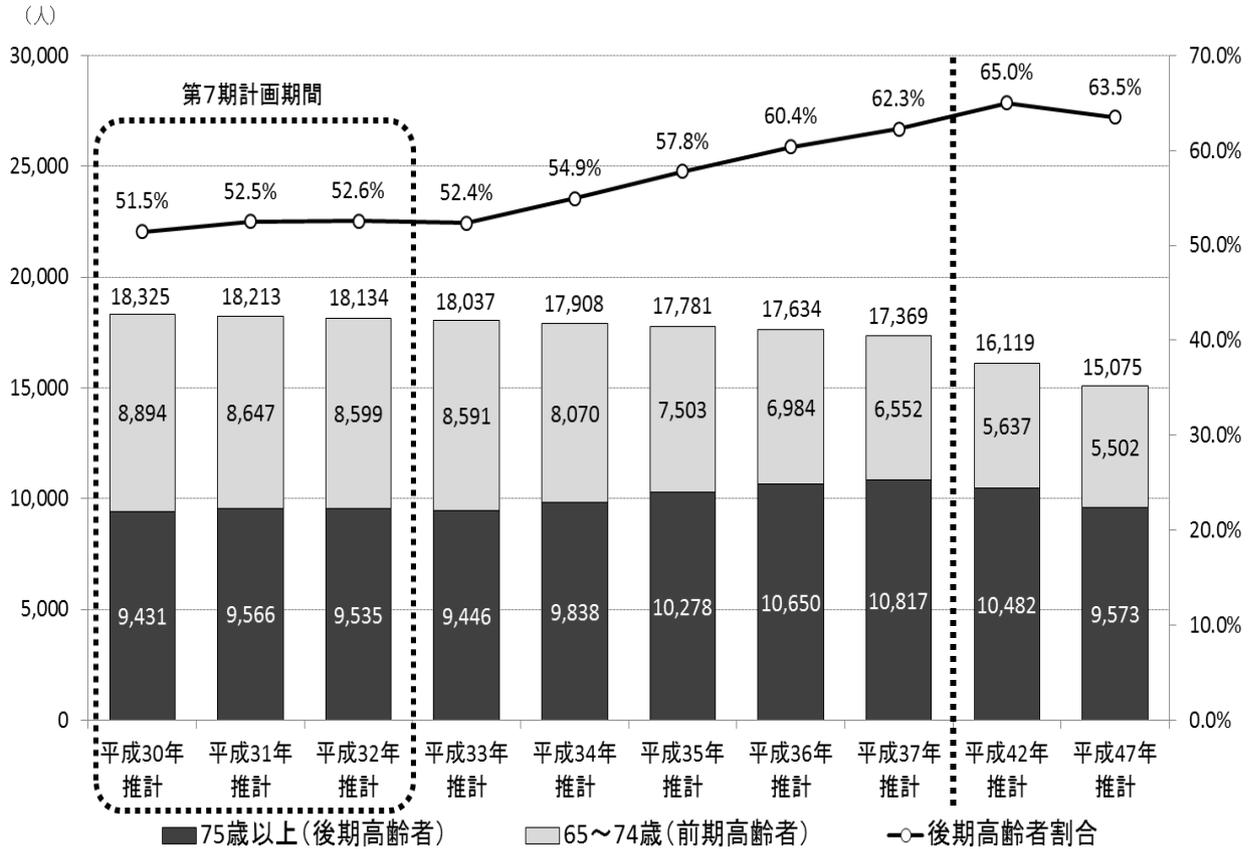
総人口は、平成30年推計の53,026人から平成32年には51,693人と1,333人減少、平成37年には48,090人と4,936人減少すると予測される。年齢3区分別では、65歳以上、15～64歳、0～14歳のいずれも平成30年以降は減少すると予測されており、平成32年には65歳以上は18,134人、15～64歳は27,805人、0～14歳は5,754人、平成37年には65歳以上は17,369人、15～64歳は25,767人、0～14歳は4,954人と予測される。



※推計にあたっては、平成24～28年（各年10月1日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

2) 65 歳以上人口の推計

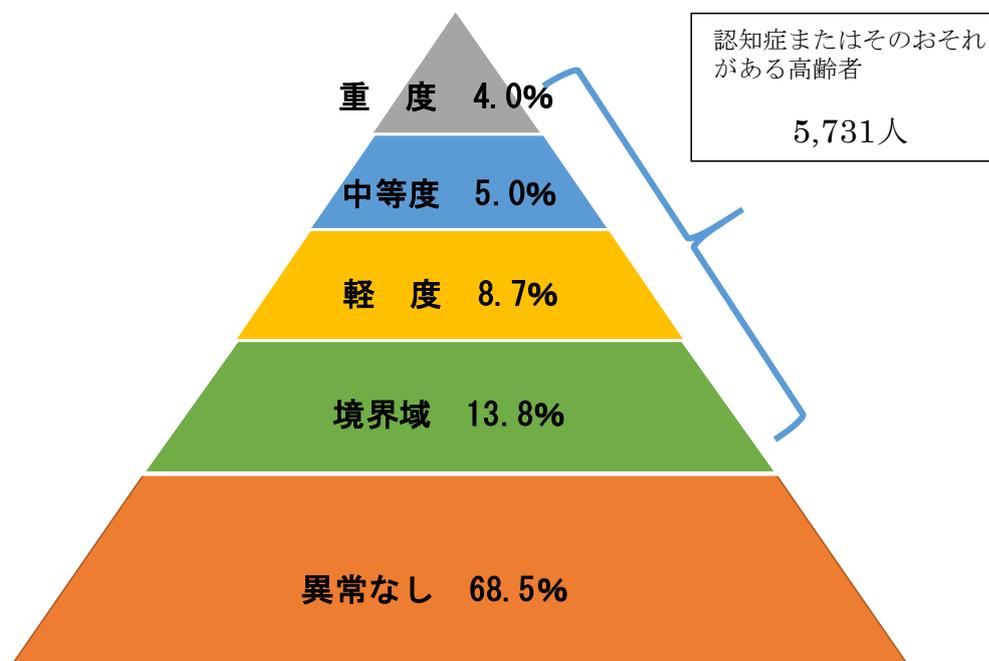
前期・後期高齢者人口の推計は、前期高齢者人口が減少し、後期高齢者人口が増加する傾向が続くと予測される。平成 37 年には、高齢者人口は 17,369 人と現在より少なくなるが、後期高齢者人口は 10,817 人、高齢者人口に占める後期高齢者人口の割合は 62.3%と大きく増加すると予測される。



※推計にあたっては、平成 24～28 年（各年 10 月 1 日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

3) 認知症高齢者数の推定値

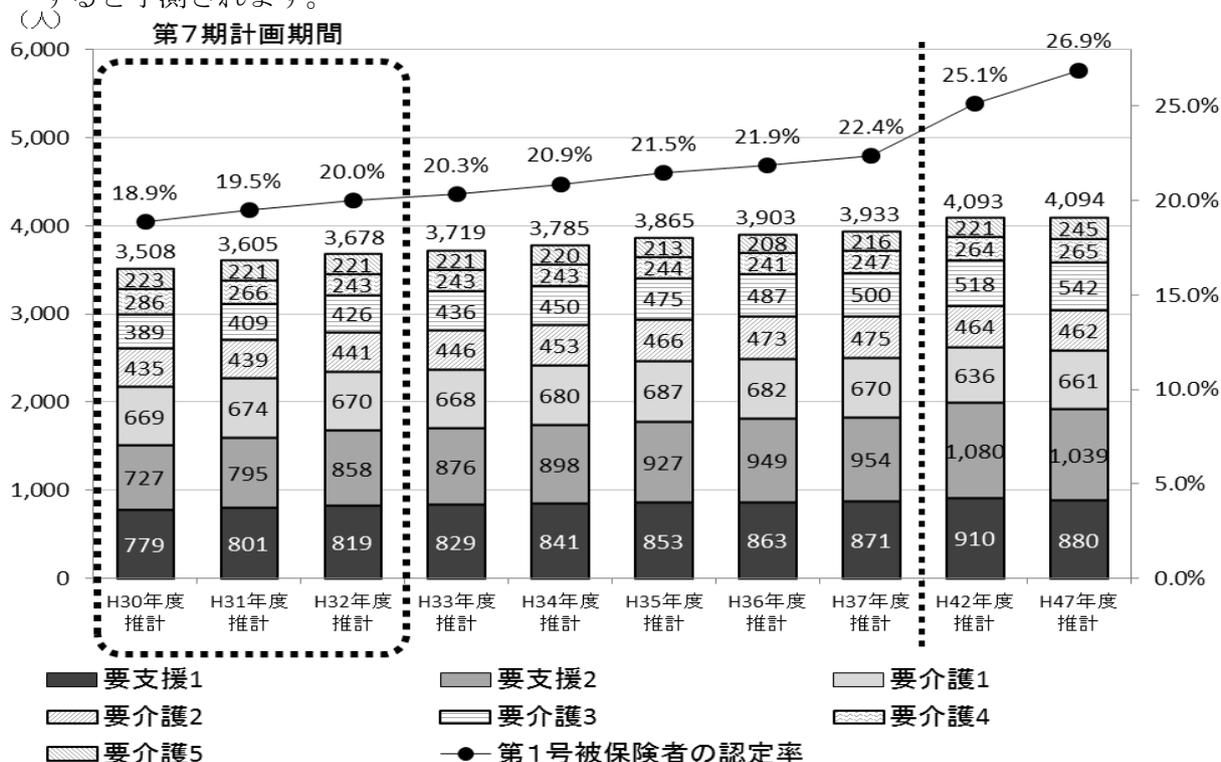
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から、認知症または認知症のおそれのある高齢者の推定結果は5,731人と推定され、65歳以上の約3人に1人の割合となる。



※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果を参考にし、未回答群も回答群と同じ程度のCPS（認知機能障害の程度）であろうという前提での推定値
※実際の人口値（住民基本台帳）を参考にして算出

2. 要支援・要介護認定者数の推計

要支援・要介護認定者数の推計では、平成32年度時点に合計が3,678人、平成37年度時点に合計が3,933人と見込まれます。要介護度別では、要支援1や要支援2が特に増加すると予測されます。



※認定者数は、第1号被保険者と第2号被保険者の総数とし、認定率には第2号被保険者は含まない

※推計は、地域包括ケア「見える化」システムの自然体推計の手法により独自に試算

単位:人

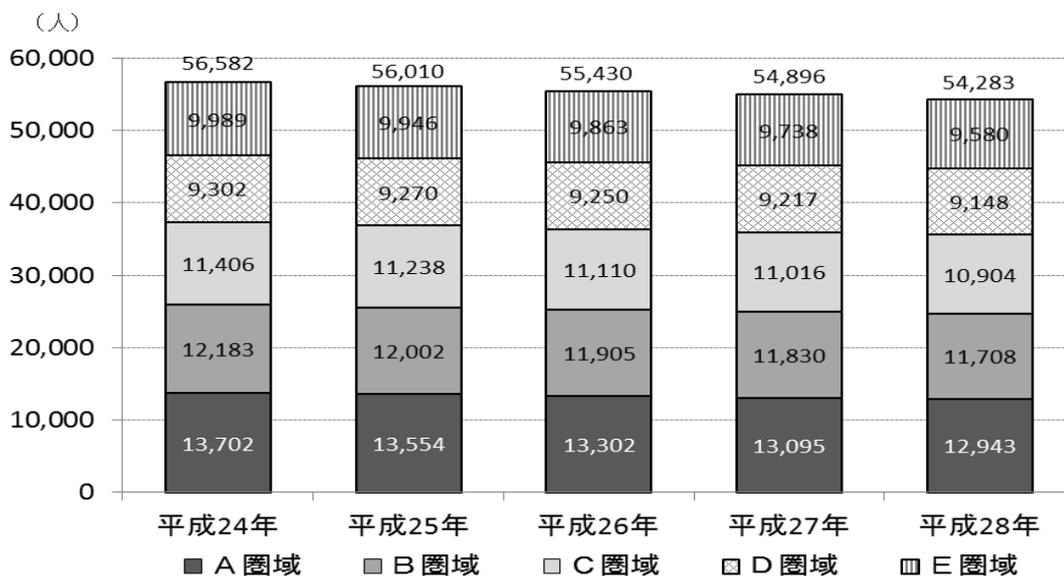
		H30年度推計	H31年度推計	H32年度推計	H33年度推計	H34年度推計	H35年度推計	H36年度推計	H37年度推計	H42年度推計	H47年度推計
第1号被保険者	要支援1	769	791	809	819	832	844	854	862	901	872
	要支援2	718	786	849	867	890	919	941	946	1,072	1,032
	要介護1	663	668	664	662	674	681	677	665	631	656
	要介護2	423	427	429	435	442	455	462	464	454	453
	要介護3	382	402	419	429	443	468	481	494	512	537
	要介護4	282	262	239	239	239	240	237	243	261	262
	要介護5	218	216	216	216	215	208	203	211	217	241
	小計	3,455	3,552	3,625	3,667	3,735	3,815	3,855	3,885	4,048	4,053
第2号被保険者	要支援1	10	10	10	10	9	9	9	9	9	8
	要支援2	9	9	9	9	8	8	8	8	8	7
	要介護1	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5
	要介護2	12	12	12	11	11	11	11	11	10	9
	要介護3	7	7	7	7	7	7	6	6	6	5
	要介護4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
	要介護5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
	小計	53	53	53	52	50	50	48	48	45	41
	合計	3,508	3,605	3,678	3,719	3,785	3,865	3,903	3,933	4,093	4,094

※推計は、地域包括ケア「見える化」システムの自然体推計の手法により独自に試算

3. 日常生活圏域別の人口推計

1) 圏域別の総人口の推移

圏域別の総人口は、全ての圏域で減少している。平成24年から平成28年にかけての減少率が最も高いのはA圏域で5.5%減、最も低いのはD圏域で1.7%減となっている。

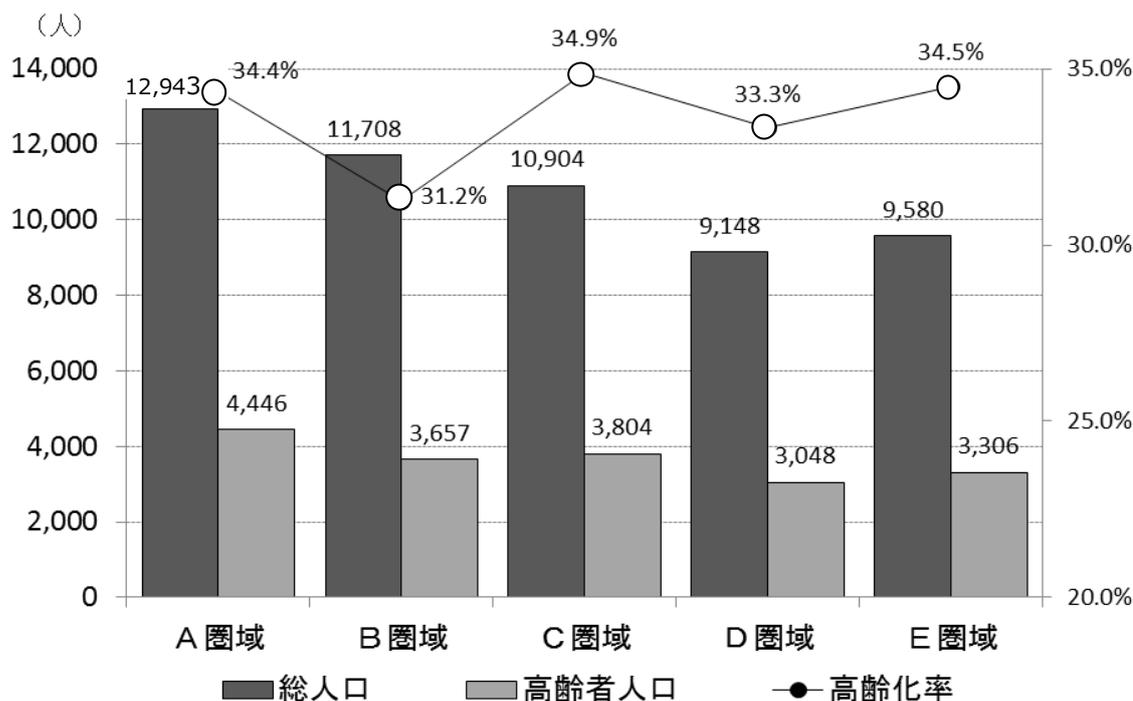


資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

2) 圏域別の高齢者人口と高齢化率

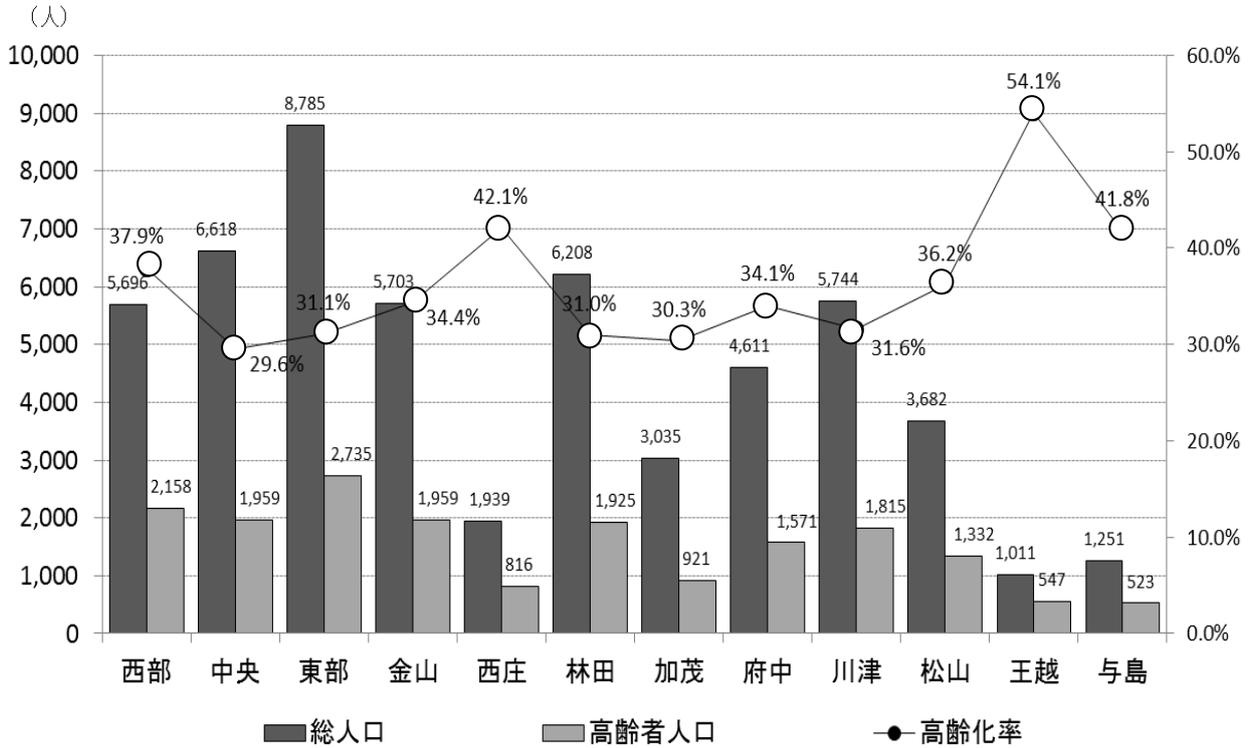
圏域別の総人口はA圏域が12,943人と最も多く、次いでB圏域が11,708人となっている。高齢者人口はA圏域が4,446人と最も多く、次いでC圏域が3,804人となっている。

また、高齢化率はC圏域の34.9%が最も高く、B圏域の31.2%が最も低くなっている。



資料：住民基本台帳（平成28年10月1日現在）

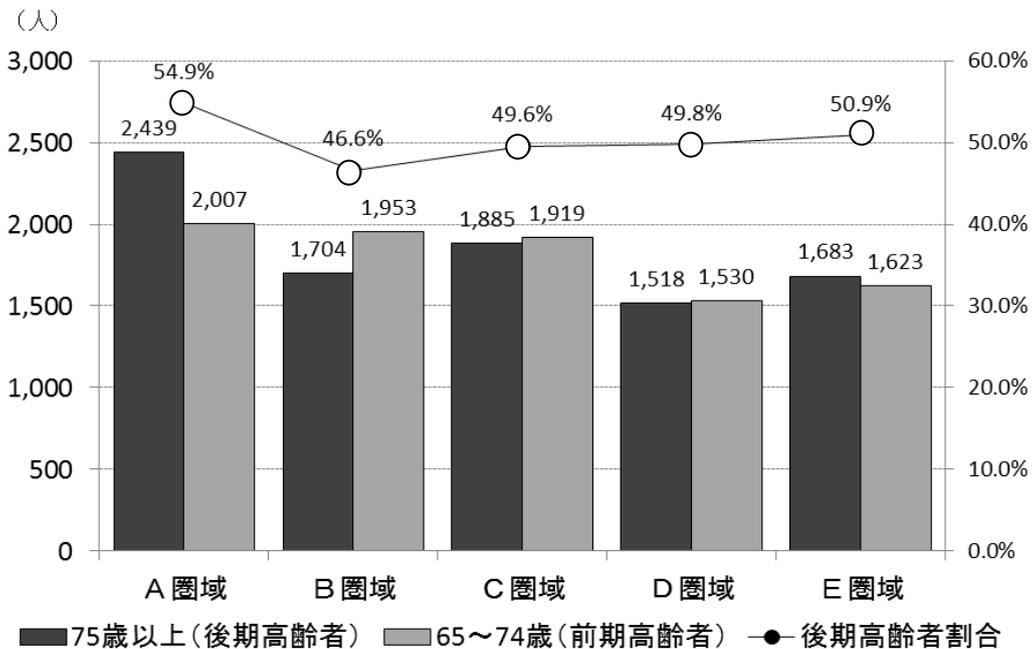
■【参考】地区別の高齢者人口と高齢化率



資料：住民基本台帳（平成 28 年 10 月 1 日現在）

3) 圏域別の後期高齢者割合

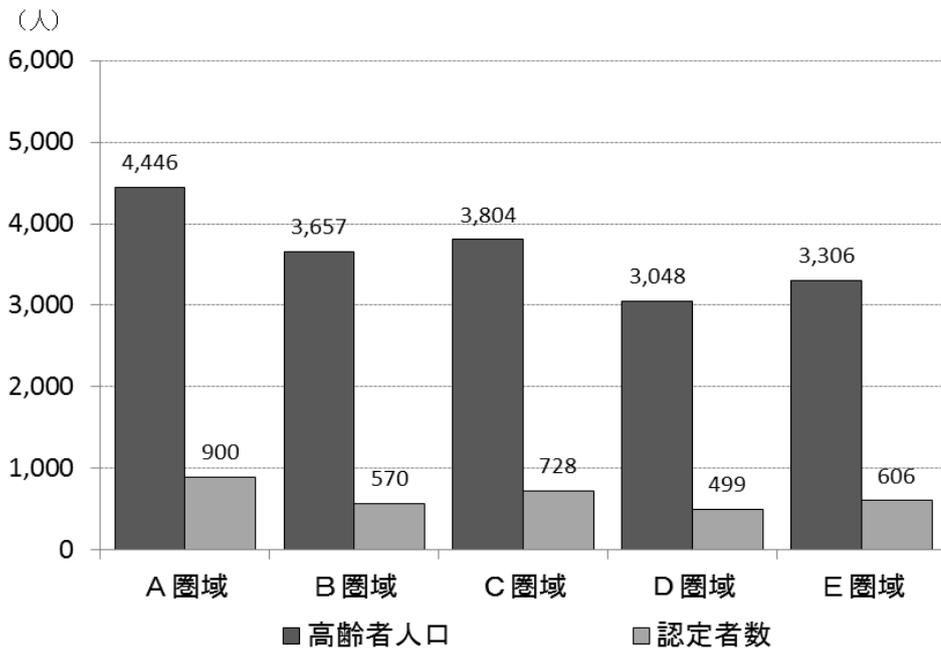
圏域別の後期高齢者割合はA圏域が 54.9%と最も高く、B圏域が 46.6%と最も低くなっている。



資料：住民基本台帳（平成 28 年 10 月 1 日現在）

4) 圏域別の認定者数と認定率

圏域別の認定者数はA圏域が900人と最も多く、次いでC圏域が728人となっている。

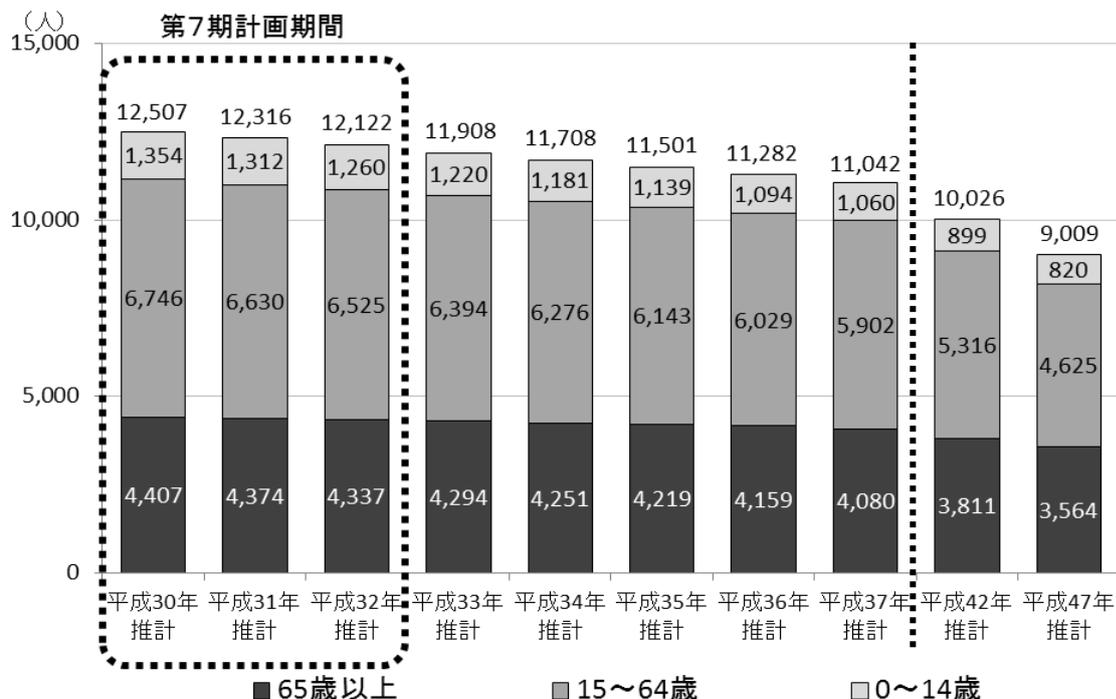


資料：住民基本台帳（平成28年10月1日現在）、介護保険事業状況報告

5) 圏域別の人口推計

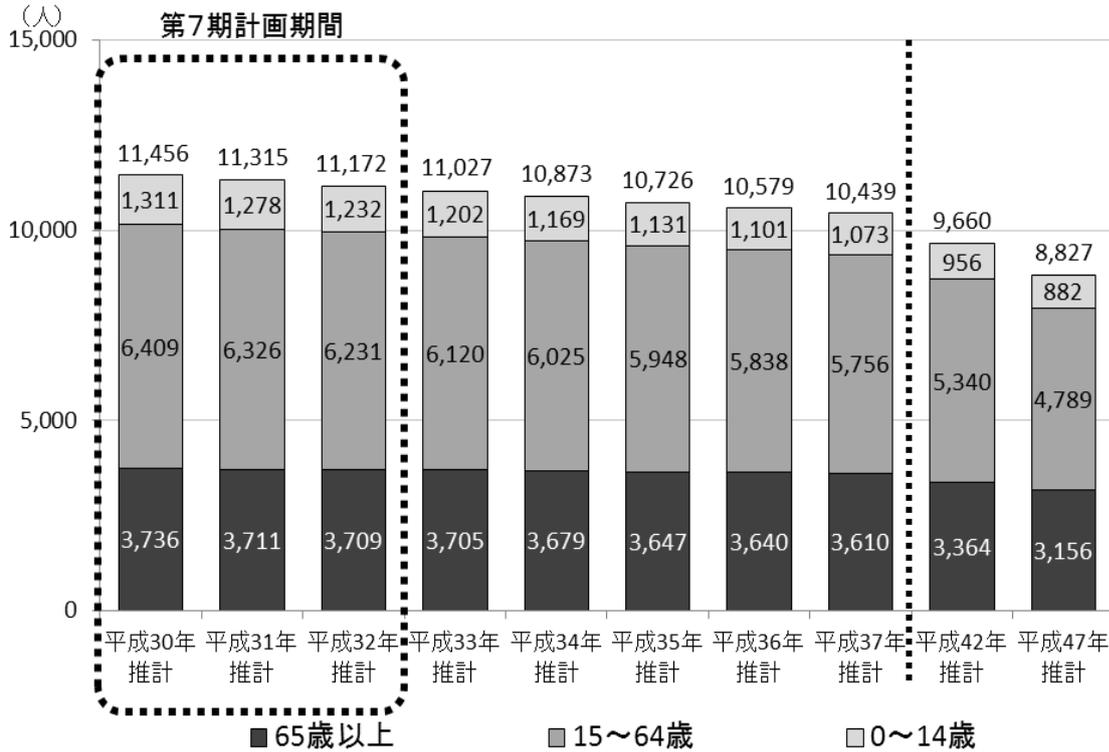
圏域別の総人口は、全ての圏域で減少すると見込まれる。高齢者人口も全ての圏域で減少が見込まれる。

■ A 圏域



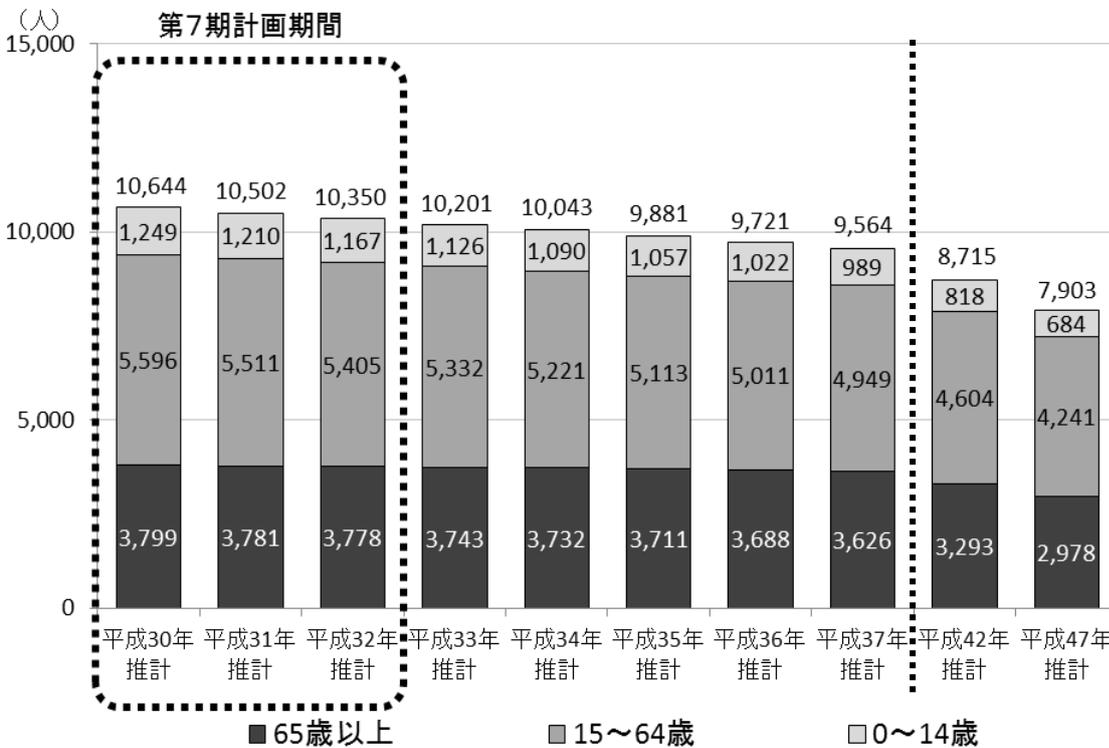
※推計にあたっては、平成24～28年（各年10月1日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

■ B圏域



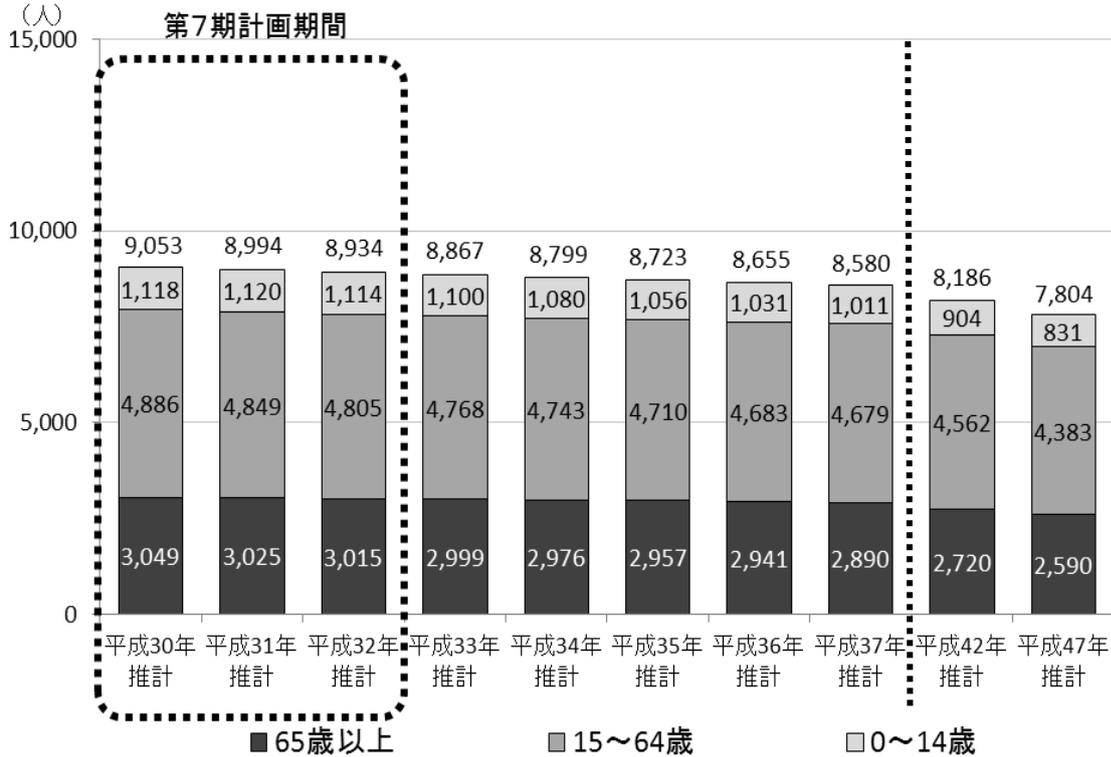
※推計にあたっては、平成 24~28 年（各年 10 月 1 日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

■ C圏域



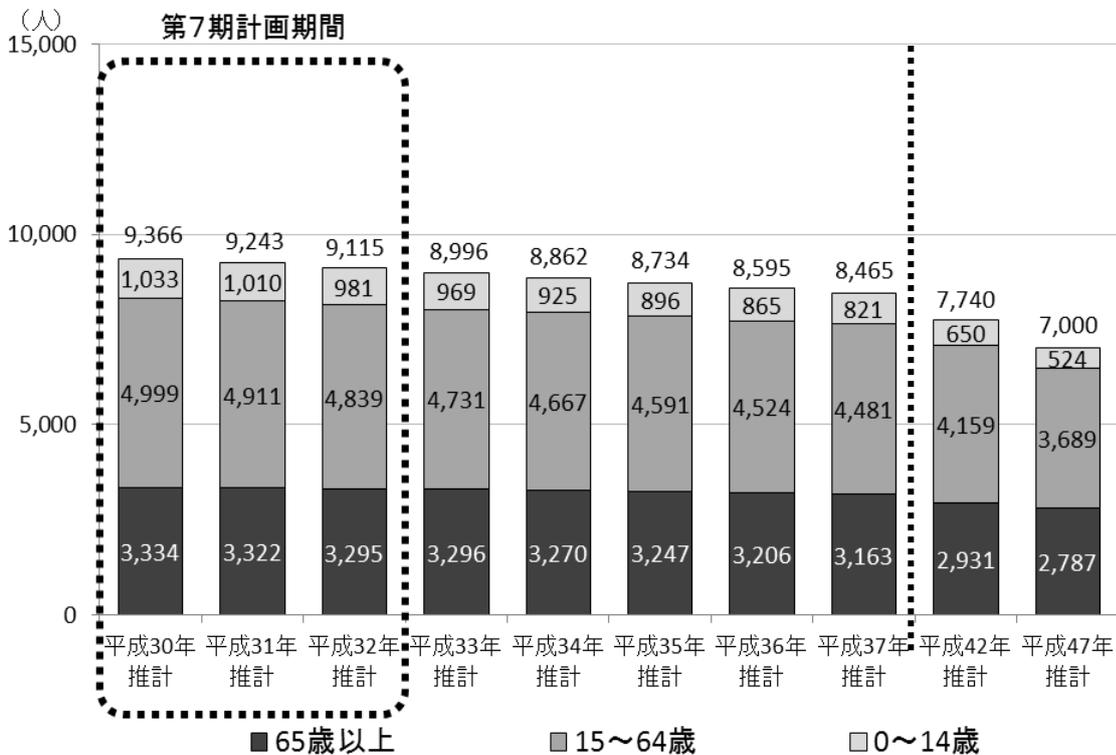
※推計にあたっては、平成 24~28 年（各年 10 月 1 日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

■ D 圏域



※推計にあたっては、平成 24～28 年（各年 10 月 1 日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用

■ E 圏域



※推計にあたっては、平成 24～28 年（各年 10 月 1 日現在）の住民基本台帳の人口により、コーホート要因法を用いて算出したものを採用